

目次

ごあいさつ 1
目次・例言 2

第一章 弥生時代はどんな時代 3
第二章 墓の跡から何がわかるか 5
第三章 壺再葬墓から方形周溝墓へ 6
第四章 中期後半の墓―西から南から― 12
第五章 後期の墓―多様化する墓の形 19
第六章 こどもを葬る―早世したこどもの墓― 35
第七章 墓を守る―眞形の人形土器― 38
第八章 墓から探る群馬の弥生社会 42

図版目録
展示品目録
参考文献

例言

- 一 本書は、令和五年度かみつけの里博物館第二回特別展「甲いのかたち―墓から探る群馬の弥生時代―」の展示解説図録です。
- 二 本書の執筆及び編集は、小泉範明が行いました。
- 三 本書には、展示品のすべての写真が掲載されているわけではありません。また、展示品以外の参考資料も掲載されています。
- 四 本書での掲載順と展示の順番が異なる場合があります。
- 五 本書に掲載した写真・挿図の提供元や出典は、「図版目録」のとおりです。
- 六 本特別展の展示資料は、「展示品目録」とおりです。
- 七 本特別展並びに本書の作成にあたっては、多くの機関・個人の方々から多大なご協力を賜りました。巻末に明記し、心より感謝申し上げます。

第一章 弥生時代はどんな時代

現在、縄文時代／弥生時代／古墳時代という時代区分が一般的です。「弥生時代」という名称が定着して約六〇年。今、弥生時代がどのように認識されているのかをみていきます。

弥生時代の定義

弥生時代は、弥生式土器が使用された時代と定義され、前期・中期・後期に区分されてきました。そして、弥生式土器とイネがともに出土する事例があることから、灌漑水田稲作が始まった時代として認識されてきたのです。しかし、発掘調査資料の増加に伴い、しだいに土器による時代区分が難しくなります。

そこで、一九七〇年代になると弥生時代を「日本列島で食料生産（農耕）が始まってから前方後円墳が成立するまでの時代」と先に定義し、弥生時代に使われていた土器を弥生土器と呼ぶことが提唱されました。

その後、縄文時代晩期と考えられていた時期にも水田があったことが分かり、先の定義に従い弥生時代前期の前に早期が設定され、時代区分が変更されました。縄文土器が弥生土器になったのです。

弥生時代の年代

一九九〇年代、弥生時代の年代は紀元前五世

紀から紀元三世紀後半のおおよそ六〜七〇年間と考えられていました。

しかし、二〇〇三年に国立歴史民俗博物館は、放射性炭素年代測定の結果に基づき、弥生時代の年代を紀元前一〇世紀〜紀元三世紀中頃のおおよそ二〇〇年間と発表します。これについては、現在も論争がありますが、それまでの年代観について大きな修正が必要になりました。

弥生時代の始まりを紀元前八〜七世紀とみる説を採用しても、北部九州地方と関東地方では灌漑水田稲作開始の時間差が六〜七〇〇年もあることになったのです。

ゆれる時代の定義

縄文時代は狩猟採集で食料を獲得した時代、弥生時代は農耕で食料を生産した時代と考えられています。

しかし近年、縄文時代にもアワ・ヒエ・マメ類が栽培されていた可能性が高まり、食料生産の有無で時代を区分する有効性に疑問が投げかけられています。

現在、灌漑水田稲作の導入を弥生時代の始まりとする意見が有力ですが、そうすると関東地方の前期から中期前半は弥生時代なのかというところが問題になります。

前期から中期前半の関東地方は、灌漑水田稲

作が定着しているとはいえないが、アワ・キビ・マメ類などの畑作も行い、弥生文化の特徴とされる壺形土器も使用していると考えられています。

この時期について、①弥生文化から除外する意見、②弥生文化の地域性とする意見、③稲作と畑作の複合こそが弥生文化の特徴と考える意見などが出されています。

①の場合、農耕（主に灌漑水田稲作）が社会の基盤となり、社会が複雑化しながら政治的に統合され、古墳時代にいたる文化を弥生文化とし、その時代を弥生時代と考えています。

②・③の場合、弥生文化を②大陸から伝わった要素、④縄文文化から引き継いだ要素、⑤新たに加わった要素に分け、④と⑤に弥生文化の地域性を見出します。

このように、弥生文化・弥生時代については現在様々な意見が出されています。弥生時代という時代区分は可能なのか、今後の大きな課題と言えるでしょう。